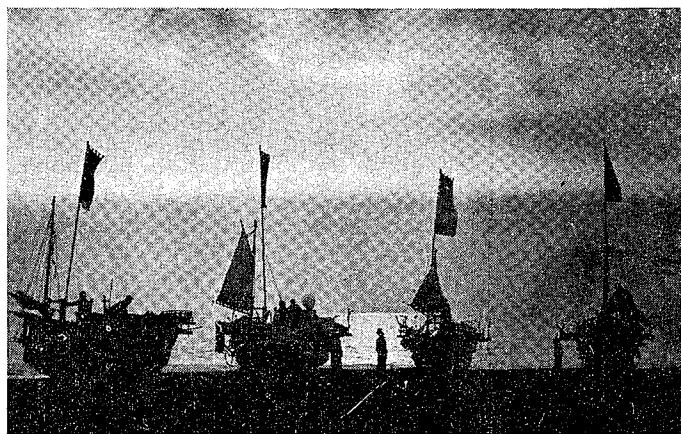


新春の小田原海岸

漁人は 舟かさりして 海幸を ほき祝ふらし 年の始に



# 小田原史談会

## 迎春の辞

小田原史談会長 鈴木十郎

昭和四十年の新春を迎え、謹んで御祝辞を申し上げます。小田原史談会が結成されてから十年、その間ににおける会員各位の史蹟上寄与された功績は今さらここに譲々するまでもありません。しかも各位はみなそれぞれの職務があり、多忙の身をもって寸暇を割き奉仕されたことは全く郷土愛の精神に基くもので感謝感激の外ありません。

我が小田原市は、昨年東海道新幹線の開通により大なる変革をもたらし、一面東海道一号国道の交通量も激増し飽和状態を来たし、その解決策として先年來進め来りし西湘海岸のバイパスも当局によつて着手され、その他厚木市との高速道路の工事をはじめ、各方面的道路の開通も進められつつあります。首都圈整備圏内として、大東京の過密人口の地方分散も、最もよき条件を備えた小田原市に集中すべく、他面西湘都市連合の構想も、さき頃首都圏整備委員会において具体化を促進するよう決定されて、いよいよ市に課せられた使命の重大さを感じます。

この時に当つて市の発展と共に、史談会も自然その範囲が拡大され、広く他の同圏内にある都市の史談会とも連絡を保つて行かねばならぬと思います。従つて史談会の使命は更に重大さを加えるに至るべく、予め備うるところありて視野を広め、今後一層のご努力を望んでやみません。

ここに希望に燃える新春を迎え、各位の御健康と御多幸を祝して年頭の辞いたします。

第39号  
発行所 小田原市幸一丁目内  
小田原文化館  
電話小田原三四七七番

印刷の御用は  
清水印刷

## —谷宗牧の東国紀行より—

二十六日。幻庵より朝風呂にいるべきよし使あり。  
すぎし夜の雨、曉方より序へかへりて有りけむ、起  
るべせられたり安房上総の浦々窓うつ心地して、鎌  
倉山は茶屋の木末にかかるれり（後略）  
おどろかされて

國根山霞こめたる明方の  
春に驚く峯の白雪  
幻庵後園の山見すべしとて、竹の枯葉を踏分てし  
るお面影を伝え、感興湧くものがある。

## 門松談義

右記行文は、幻庵草堂主人立木望隆氏の年賀状に記されたものである。天文十四年（約四百二十年前）連歌師宗牧が久野の幻庵の館を訪れた當時のさまが、いまもなお面影を伝え、感興湧くものがある。

門松には深い意義がある。戦時中、資源愛護のためといつて、門松廃止運動が起り、紙を門に貼りつけて代用してはなどと説く人もあつた。現に門松を廃止した家もあって、門松の影が薄らってきた。ところが松の下枝はおろさなければ大きく育たないので、その下枝を利用しても門松に利用したら、却つて資源の活用になるのである。クリスマスツリーの如く樹木の中心の幹を切り取るのでは全然違う。

門松はもとんど、あり玉の年立ちがわるとき、新らいく年神様をお迎えする「よりしる」として立てられたもので、年神様ご臨臨の斎場として門松を必要として、神代より伝えてきたもので、支那文化漢來より遙かに古い伝統を有している。正月には祖先や天地万物に感謝して祭祀を奉仕し、一族集まつて祖神を祀つて睦み合うから月と云い、天地方方に感謝する年神様のようどころとして門松は必要だったのである。

## 二宮尊徳の真髓

(巧妙な自由主義と)

社会主義との並行家)

太田康平

(前号の続き)

尊徳は現実家であった  
丈に頗る野心家であつた。  
た。藩主大久保家の家臣

となり武士となつて分家  
鳥山大久保家の桜町復興  
に従事したのは一面自  
己の所信を実行すること  
を望んだのであつたが、  
他面農民から武士に取り  
立てられたことを非常に  
喜んでいた形跡があり、  
大久保家に対しては何時  
も頗る柔順な態度を示し  
その行動には平民的所  
が割合に少なかつた。

又水野忠邦(有名な老  
中の)の印旛沼開拓を手伝  
うために旗本に取り立て  
られたが、その際には大  
久保家の仕事を放任した  
當時としては藩士から  
旗本に取り立てられるこ  
とは大した出世であり、  
自分の経緯を大きく実行  
するためとは云へ喜んで  
忠邦の要求に応じており  
ここ等にも机上論で満足

する学者肌の道学先生で  
はなく、出世主義の野心  
家であることが現れてい  
た。

(イ) 尊徳の称えた報徳の特  
長は、相対的で唯物論的  
であり、又自然と社会と  
の矛盾を認めこれを調  
整して世の中を發展させ  
ることを主張しておりこ  
れがいわゆる「一円融  
合」であり、従つて正交  
とその融合統一を称える  
点において、ヘーゲルの  
弁証法との類似を称へ、  
又唯物論的で、しかもヘ  
ーゲルの思想を汲むマル  
クスの所論によく似てい  
ることを指摘する者があ  
る(坂口三郎氏)

しかしヘーゲルやマル  
クスは正の次に、正の内的  
必然性によつて反が出現  
することを称えるのに対  
して、尊徳は自然と社会  
との正反対存在を前提  
として一円融合を称えて  
おり、この点において尊  
徳は、国民生活から見た政  
治は、天皇親政でも悪政  
でも善政もあり、従つて  
政治組織やその形態等を  
論じ、その変革を論ずる  
のは、物事を形式的、表  
面的に見る行動であると  
思つて、いたらしく、結局  
尊徳は人生の中心である  
経済及び生活の改革者で  
あり、実行家であつて政  
治の改革屋ではなく、こ  
の点において、右の社会  
主義者の批難は政治に重  
点を置き過ぎた的外れの  
所があり、私財社会還元  
を強烈に主張した点にお  
いて、相当な社会主義者  
がいたのである。

尊徳の行き方は、たし  
かにその通りで産業經濟  
の發展改革を称えたが、  
政治の本質や政治形態等  
には関心を持たず、現在  
の幕府や大名制度の許  
にあって、産業を開拓发展  
させ、剩った財力を他人  
のために使って社会を幸  
福にすることを称えたの  
である。

現在国民經濟が重視され、  
民生安定向上が政治行政の  
最要勢になつてゐる今日に  
おいては、尊徳の思想行動  
を十分に再認識して、そ  
の特質を完全に把握し、大  
幅に宣伝すべきであり、これ  
が小田原人の大きな責務と  
考へてゐる次第である。

(完)

とは成り立つてゐる様  
に思われ、又ヘーゲルや  
マルクスが理論的である  
のに対して、尊徳は現実  
の自然現象に重点を置いて  
いる丈に現実的であり  
これ等の点において、報  
徳が科学的でないと言わ  
れるのである。

(ロ) 尊徳は経済改革を称え  
たが、封建制度を容認  
し、幕府や大名制度に対  
して何等批判を加えなか  
つたと云う批難が社会主  
義者や社会筋から現れ  
てゐる。

尊徳の思想は、たゞ  
江戸時代はさすがに武家  
の都だけに、新年は各大名  
の登城の声によって明けた  
大体元日は六三半(いまの  
七時半ごろ)に三家をはじめ  
一門、それに譜代大名・  
諸役人、二日には五三時(一  
いまの八時)に外様大名と  
諸役人、三日は同じ刻に諸  
大名の嫡嗣、無位無官それ  
に三都奈良・堺・伏見の由  
緒ある大町人、六日は同刻  
江戸及び遠国の大寺・大社  
の寺僧や社人たちが登城、  
拜賀ということになつて  
いた。

早朝に登城というので、  
遠距離にある大名は、大晦  
日のうちから供そろえをな  
し、町人たちが未だ借金取  
りに駆けずりまわつてゐる  
といふに、美々しく行列  
の波れをいやすため、戸  
を閉めて商いを休み、借金  
をせませ、屠蘇を祝つて寝正  
月をきめこむ。

## 江戸の正月

取りから帰った足で初詣を  
すませ、屠蘇を祝つて寝正  
月をきめこむ。

二日ともなれば未明から  
万才、獅子舞い、鳥追い、  
狼まわしなど、正月の気分  
が江戸中に溢れ、年始まわ  
りが始まると、出初め、彈き  
そめ、吉原の道中、それに  
初荷の押し立て五色の新ら  
しい鼻綱をつけた中で景氣  
よく市中をまわる。夕暮れ  
になると年始酒に酔つた人  
はやはり松飾りである。江  
戸城には大きな門松を立て  
各大家の上屋敷には、それ  
ぞれお国ぶりの門松を立て  
た。充分奇抜なものであつ  
て、鍋島家の藝妓、大きな鹽鰯  
を二四もならべた南部の掛  
綱松の代りに門の左右に足  
軽を三人づつ立たせた佐竹  
の人飾り。この人飾りをつ  
とめる足軽は、どんな客が  
来ようとも厭もなければ  
お辞儀もしない、棒立ちに  
立つて往来を見張つたとい  
う。

## 水の悲劇で消えた古代集落

### 下曾我遺蹟の発掘

ある出版社の依頼で、二宮尊徳翁の伝記を校閲する機会があった。自分は尊徳の持っていた農地改革の技術について、從来あまり言われていない点に興味があつたので、多少その資料を集め、「一二三これを発表したことのあるた縁故から、こんなことになったのだろうと考えて、改めて尊徳の伝記を調べなおして見た。そして、そのすぐれた土木工学の知識と、特に「水」に対する彼の非凡な卓見が、どこから生れたのだろかと、また興味を新たにしたのであった。そして、結局、彼の測量技術も、水の比重差の測定も、サифォン現象の正確な応用も、すべては、彼の生活環境での経験の分析から生れているらしいと考えざるを得なくなつた。いわば、教えられた伝統の経験的知識を越えて、彼はそれを分析し、さらに自己経験の分析を加え、そして一つのルールを導いたのである。元来日本ではこの

宮尊徳翁の伝記を校閲する機会があった。自分は尊徳の持っていた農地改革の技術について、從来あまり

言われていない点に興味があつたので、多少その資料

を集めて、「一二三これを発表したことのあるた縁故から、こんなことになったの

だろうと考えて、改めて尊

徳の伝記を調べなおして見

た。そして、そのすぐれた

土木工学の知識と、特に「

水」に対する彼の非凡な卓

見が、どこから生れたのだ

ら、こんなことになつたの

だろかと、また興味を新たにしたのであった。そして、結局、彼の測量技術も、水

の比重差の測定も、サиф

ォン現象の正確な応用も、

すべては、彼の生活環境で

の経験の分析から生れてい

るらしいと考えざるを得な

くなつた。いわば、教えら

れた伝統の経験的知識を越え

て、彼はそれを分析し、さ

尊徳とは三題話にもならないが、奇しくもここでは尊徳に水の氾濫はすでに有史である。元来日本ではこの以前からの継続現象である。

西郷南洲が奄美大島流罪中に島民の子弟を教えるた

めに書いた手本が、このほ

ど名額市で発見された。

南洲が安政六年一月十二

日、名を菊地源吉と改め、

大島郡龍郷村に流されたと

き、近くの子弟を集め習字

を教えたことは有名だが、

この手本には万延元年一月

吉日とあり、初登山手習教

宛転枝頭出谷駕。

乙巳新正口占

も七枚の百田紙(半紙の

ことが明らかになつたわけである。(つづく)

※鶴口清之先生調査・内

田武雄氏投)

## 西郷南洲の手

### 習い手本

### 名瀬市で見つかる

### 西郷南洲が奄美大島流罪中に島民の子弟を教えるた

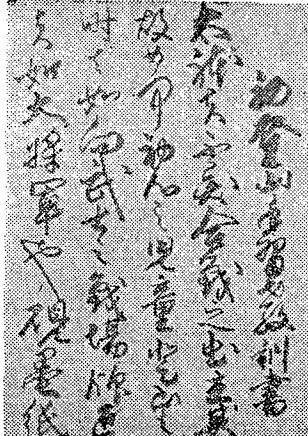
### のといわれる。

### 新春和歌

### 門松

### 新春和歌

### 門松



## 文苑

### 辰頃詠鳥

### 一所若杉重雄

## 琵琶六題

### 蓑田長平

### まづらをの友とし代々に伝ふべき琵琶の正しさひきな

### く

### 連へぞ

### 彈く人もまたきく人も琵琶

### の音も一つ心にとけとけ

### か。

▼昨年は辰年で活躍が約ふべき琵琶の正しさひきなされ、オリエンピックなど行なわれましたが、本年は戦後二十年、国としても成年を迎えることになり、内閣

も佐藤総理によって政治が行なわれ、従来の悪弊を打破して、新らしい衣に脱皮してもらいたいものです。

は琵琶に残れりおろそかに

すな

風静窓前晴色鮮。

四隣也愛雪晴天。

一笑一落余生伴。

笑送辰年迎巳年。

×

清水専吉郎

×

あふ人毎に笑みをたたえて

め

さへわたる糸のねいろに歌

声にふるいたゝなむやまと

男の子は

む

のこ多幸を心より御いのり

申上げます。本年は巳の歳

で己は蛇とされて、とかく

人に嫌われますが、別段人

に害をなすでもなく(ママ

シやハブの如きは別ですが

人)蛇こそ災難です。

▼よく蛇の脱け殻といいう

のが木の枝などに引っかか

っているのを見ますが、い

つの間に脱け代るのか分り

ませんが、本年は人間も脱

皮する年ではないでしょ

うか。

▲去年は辰年で活躍が約

ふべき琵琶の正しさひきな

され、オリエンピックなど行

なわれましたが、本年は戦

後二十年、国としても成年

を迎えることになり、内閣

も佐藤総理によって政治が

行なわれ、従来の悪弊を打

破して、新らしい衣に脱皮

してもらいたいものです。

<b>小田原信用金庫</b> 小田原市幸1の179 (電話(0465)223121) 理事長 鈴木十郎	十字町支店 (電話25121代) 緑町支店 (電話25124代) 湯本町支店 (電話箱根(0)5518-9) 国府津支店 (電話(0)2191-2) 鵠宮支店 (電話(0)2138代)	日本交通公社協定 <b>日本陣 古清水旅館</b> 小田原市幸町彦丁目・宮の前 電話 { 0336 2216
---	--	--

御料理 御弁当仕出し  <b>東華軒</b> 代表取締役 飯沼相三郎  小田原駅前 TEL (0465) 5061~2	<b>楽しい生活</b> 明るい読書  <b>八小堂</b> 小田原駅前 TEL 5388~9	神奈川県建設協会 <b>小田原支部</b> 小田原市網一色373 電話(0465)20084 4288 4289	小田原駅前 <b>あさひ</b> 食堂
---	---	---	---------------------------

あなたの暮らしのムードをつくる 婦人・子供の店  <b>小田原メリヤス</b> 小田原市錦通り 3837 TEL (0465) 3864	建築金物 家庭金物  <b>株式会社 星崎仲吉商店</b> 小田原市多古412番地 電話 2718	酒・ビール・食料品  <b>今井重雄商店</b> 小田原市幸三 電話2234~5	写真  <b>イガラシ</b> 小田原市幸3 TEL 2534番
---	--	--	--

<b>きそば庵</b> 小田原駅前 電話二八六二番	あなたの洋品店  <b>はふや</b> 小田原幸町 TEL 2307	家庭電化で明るい暮らしを  <b>(有)岡田電器</b> 小田原市十字1の22 電話 2613, 5308	有限会社 <b>あめあるよ</b> 代表取締役 川口浩  小田原市曾我谷津616番地 電話 (0465)3808番
---------------------------------	--	---	---

<b>小田原市緑四二二一七七一七</b> <b>鶴井印刷所</b> 有限会社 印刷の御用命は	<b>料理割烹</b> <b>だるま</b> 小田原市幸1~10 TEL 24128	セトモノの御用は (陶磁器・陶管・植木鉢)  <b>有限会社 大川商店</b> TEL 8513・3055	清化槽の清掃修理 小田原市緑1の47  <b>小田原衛生株式会社</b> 電話258611・2468番 取締役社長 鈴木浩
---	---	---	--

電気工事一式・設計・請負 仮壳修理  <b>兵藤電気商会</b> 小田原市下曾我駅前 電話国府津(0)3578番	建築用材一式 (建築御用命一切承ります)  <b>稻葉材木店</b> 小田原市十字1~23 電(0)5621 新玉 3~751 電(0)6884	<b>杉山康輔会計事務所</b> 小田原市新玉2~276 電話 5722	☆丁寧迅速の <b>清水印刷株式会社</b> 小田原市幸1ノ17 電話(0)3477番
---	---	--	--